

Rotary
Club of KOBE EAST

The Rotary club of Kobe East BULLETIN



神戸東ロータリークラブ会報

No.396 2022-2023 No.1

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／井元 憲生 副会長／梅田 稔 幹 事／鈴木 祐一
広報委員長／高橋 恵信 副委員長／小谷 哲也
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日



クラブ会長テーマ Wind of Smile “笑顔の風” 運ぶクラブを目指して



RI President

JENNIFER JONES

2022-2023年度国際ロータリー会長





2022-23 年度 神戸東ロータリークラブ

第 69 代会長
理事 井元 憲生

新年度がいよいよスタートしました。今年度、神戸東 RC の会長はなんと 69 代目となります。私も今年 69 歳、同い年です。神戸東ロータリークラブの誕生と同時に私も生まれたということで、大変縁を感じます。それだけではなく、私の会社の創業記念日も 6 月 9 日です。3 拍子揃っていることに驚き、今年度会長に選んでいただけたことに運命を感じます。このような年に会長をさせていただけて大変光栄に感じております。

2022-2023 年度は、国際ロータリークラブ初の女性会長となるジェニファー・ジョーンズ会長から RI テーマ「イマジン ロータリー」が発表されました。今年度のロゴマークに込められた意味についても、ペッツで学んでまいりまして、中央の「円」が互いに繋がっていることを意味しており、周りの 7 つの点は「人」をあらわすと同時に、ロータリーの 7 つの重点分野「平和構築と紛争予防」、「疾病予防と治療」、「水と衛生」、「母子の健康」、「基本的教育と識字率向上」、「地域社会の経済発展」、そして新たに加わった「環境」を表しているそうです。また、

丸と点を一緒にすると、航路を示す星、つまり私たちの道しるべとなります。その下の太い線は、いわゆる「掘り出し棒」で、力仕事をするときに使うものです。行動を起こす人たちであるロータリー会員にとって、物事を成し遂げるための道具を表しています。

色の解釈については何通りかあるそうですが、例えば、紫は「ポリオ根絶」、緑は新たに加わった重点分野の「環境」、そして白は私たちの中核的使命である「平和」を表していると言われています。

また、地区は阪上ガバナーから「Let's Enjoy Rotary !!」というテーマが掲げられています。RI も地区も、どちらにも「ロータリークラブの活動を積極的に楽しみ、参加することで、未来を切り開いていこう！」というメッセージが込められていると私は捉えています。

私も今年度の会長を任せていただくにあたり、これらのテーマについて深く考え、RI と地区の両方に欠かせないもの、本質は「笑顔」ではないか、という考えに至り、神戸東 RC のテーマを「Wind of smile “笑顔の風” 運ぶクラブを目指して」といたしました。

新型コロナウイルス流行やロシアによるウクライナ侵攻など、現代は何が起こるか分からない予測不可能な時代です。課題の多い時代であるからこそ、「笑顔で、活動を積極的に楽しみ、未来を切り開く」という、RI・地区・神戸東に通じる姿勢が、今後ますます重要になると確信しています。

笑顔がテーマということで笑顔について少し触れてみたいと思います。一説によると、笑顔になる回数は、20 代で 15 回。50 代では 7 回。70 代では 2 回程度。などと言われています。神戸東 RC の平均年齢は 65.5 歳です。年を重ねると徐々に、笑顔になる機会が減ってしまうそうです。しかし、笑顔には様々な効果があると言われています。例えば、免疫力

の向上。脳の働きが活性化する。血行促進。自律神経のバランスが整う。筋力アップ、など。良いことづくしです。ぜひ、私たちから率先して笑顔になっていければ良いなと思っています。

もう一つ、笑顔をテーマに選んだのには理由があります。卓話にて神戸東 RC の大先輩が、世代交代、変化の年、というお話をしてくださったことがありました。今、世界的に見ても政治・経済・環境面での変化が生じてきています。ポール・ハリス氏も「世界は絶えず変化しています。そして私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も書き換えられなければならないでしょう。」と述べており、確かに今こそロータリークラブの変化の局面であると感じております。

ロータリークラブでの変化、進化というと、そのひとつに「会員増強」というテーマがあります。ただし、会員増強とは言いますが、実は私はこの表現「会員増加」と言い換えても良いのではないかと考えています。「増強」と言いますと、会側から加入してもらいたい人をお誘いする、というニュアンスが強くなります。「増加」に込めたのは、自然と人が集まってほしいという想いです。自然と人が集まる、活性化したクラブこそが理想のクラブであると思います。しかし、人が集まってくるクラブになるためには魅力や特長がなければなりません。この神戸東 RC はどうでしょうか。私は、当クラブには、これまで 68 年間、歴代の会員の皆様が培ってこられた魅力や特長が既に存在していると考えています。それは、各会員の経験値の深さと、それを共有する親睦の密度です。私自身も入会して 20 年の間に、先輩方から、ロータリーについて、仕事の在り方、経営のヒントなど、様々な事を惜しみなく教えていただきました。当クラブには数多くの壁を乗り越えてきたご経験をお持ちの方、ご自身で会社を大きくされてきた方など、幅広い業種の多種多様な経

営層の方がいらっしゃいます。そこには自身では経験できない視点があります。神戸東 RC では、それが勉強できる。これは他に代えがたい魅力です。

あとは、ここ数年のコロナ禍で機会の減少してしまった“笑顔で交流できる場”があれば、その魅力を広げていくことができると考えています。そして、そこで若い方々に先頭に立っていただきたい。そうすることでクラブの新陳代謝がはかれ、未来に向けて活性化すると考えています。私たちには、元々笑顔になれる要素＝DNA があります。それを伝え広げていくことが重要なのです。深い知識のある方々と、意欲のある方、互いが交流し高め合える、そんなクラブには、本当の笑顔が生まれるでしょうし、多くの人が入会したいと集まってくるはずです。そんなクラブを目指してまいります。

今、ロータリークラブの 10 年前の写真を見れば「昔だったな」と思うように、今の私たちの写真を撮って、10 年後に「古い感じがするな」「ずいぶん変わったな」と思えなければ、私たちは進化できていないということです。今が変化の節目です。未来の神戸東 RC の会員が笑顔であるために、今こそ、笑顔を追求していくことが大切です。

この 1 年、神戸東 RC から“笑顔の風”を吹かせ、地域や社会にも貢献していきたいと考えておりますので、ご支援とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。





副会長
理事
クラブ管理運営委員長
梅田 稔

本年度副会長をおおせつかりました梅田です。まだまだ未熟ではございますが、出来るだけ多くの会員の皆さんと関わりながら、先程、井元会長からお話がありました様な楽しくて為になる、そして笑顔が溢れる一年になる様に様頑張りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。副会長の役割と言いますと、半年以上前、お声がけ頂いた頃は会長不在時に理事会等の議長をしなければいけないくらいかと思っておりましたし、周りの方にお聴きしても「副会長は何にもしなくていいよ」「副会長は楽やで」と言われる方が殆どだったので、井元会長には1年間とにかく健康に十分御留意頂いて元気でやって頂ければいいなと思っていたんですが、その後4月29日の地区研修協議会に出てクラブ管理運営部門の担当という事をお聞きしました。少し前まではクラブ奉仕と言われていた部門という事です。ロータリーには五大奉仕というものがあります。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕は主に事業をやって対外的に奉仕する事が多いと思いますが、クラブ奉仕は、クラブの機能を充実させるためにクラブ内で会員が取るべき行動に関わるものとあり、クラブ内の活性化を図るための奉仕とい

う事かと思います。当クラブでは出席、親睦、家族、プログラム、週報、唱歌各委員会が担当の範囲となっております。各委員長さんも大先輩から初めて委員長になる方までおられますが各委員長さんと一緒になって井元会長の掲げられた方針実現に向けて頑張りたいと思います。又、役割としてはクラブ奉仕以外は何もしないわけではありません。神戸東ロータリークラブ細則にはこの2つの役割以外に理事会のメンバーとしての任務、他通常その職に付随する任務を行うとありますので、結果的に広い範囲でクラブ運営に関わらなければならないと考えます。深く考えればきりがありませんが、まずはクラブの会員の皆さんが楽しい1年を送れます様に、そして忙しい会長、幹事のフォローができて、結果的に会員同士の関係をはぐくみ、活気あるクラブづくりに繋がればと思います。「Wind of Smile “笑顔の風” 運ぶクラブを目指して」の実現に向けて皆様のご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。





幹事 鈴木 祐一

今年度、伝統と格式ある神戸東 RC の幹事の大役を仰せつかりました、鈴木祐一でございます。どうぞ一年宜しく願い申し上げます。

さて、令和の時代に入り新型コロナウイルス禍、ウクライナ紛争が引き起こした、社会・経済構造の大きな変化は、人々のライフスタイルをより多様化させると思います。その中で私たちの神戸東クラブも含めたロータリークラブの活動も少しずつこのような環境に適応する必要があると思います。

これまで副幹事として、前年度の森本会長、工藤幹事を観察させていただき、行動や考え方に触れ、また先輩方よりいろいろ声を掛けていただき、たくさんの意見も頂戴しました。本当にありがとうございました。そういった神戸東クラブの副幹事の活動の中で、改めて伝統ある神戸東クラブの歴史を省みると、他クラブに比べて多様な同好会が整えられていることや、会員婦人の会であるむつみ会も先駆けてつくられ女性の活動を活性化させた等、まさに時代の流れをキャッチして少しずつ新しいことにチャレンジして来た足跡を確認できたと思います。

高校時代にもよく先生方が「伝統、伝統」と言われ、これは一体何を意味するのかとよく考えたものですが、まさに神戸東クラブは時代の流れを感じながら、少しずつ新しい挑戦を実行してきたクラブだと思い、これが神戸東クラブの伝統であると思うに

至りました。私は入会してようやく8年目の浅学のものですが、このような神戸東クラブのあゆみを理解して、これから1年井元会長のコンセプトに従って元気に乗り切りたいと思います。

それでは具体的に、まず大きなロータリークラブの目的である親睦事業と奉仕事業を中心に少しお話ししたいと思います。

今年度の、井元会長のコンセプトは「Wind of Smile」です。つまり SMILE があふれる会員の相互交流を通じて、職業的知識、職業倫理性を高める例会・親睦会を創出したいと思います。また奉仕活動としまして従来から引き続いているプロジェクトを中心に、社会奉仕委員会では神戸の地区にあるインターナショナルスクール6校と日本人学校が集まった合唱会を神戸文化ホールで2月25日に開催する予定です。青少年奉仕委員会では、しあわせの村にて開催されます、Kobe っ子ラグビー親善大会（認定こども園、保育園児の交流活動）のサポートを11月21日に予定しています。どちらも多数の地域の人たちが集まり活動する中で、私たちロータリークラブが地域に開かれツナガルよい機会にしたいと思います。それ以外の委員会でも各委員長さんがしっかりと会長コンセプトを大切に多様な事業を計画していただいています。

この一年間は井元会長、梅田副会長を支えて、微力ではありますが「チーム神戸東」一体となった活動を創出出来るべく努力します。重ねて皆様のご協力と温かいご支援を心からお願い申し上げます。





国際ロータリー第 2680 地区

ガバナー 阪上 栄樹

クラブ会員の皆様

さて、阪上年度も、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。私は、この年度に向けて、ガバナーノミニー就任以来、ロータリー並びに地区の現状について多くを学ばせて頂きました。地区研修協議会は3年ぶりに対面での開催が出来、今年度のクラブリーダーの皆様には思いをお伝えすることが出来たと思っております。

今年度のジェニファー・ジョーンズ RI 会長は、国際ロータリー 119 年の歴史で初めての女性会長です。国際協議会に先駆けて今年度のテーマ「Imagine Rotary」を発表されました。そして、次のように言われました。「今の私たちはロータリーの創設者たちが推進したこと、つまりロータリーの中核的価値観、ロータリーの目的、そして4つのテストに根ざしているはずです。これらは私たちがロータリアンであることの根幹をなす原則です。時代が変わろうとも、この原則はロータリアンにとって神聖な真実であり続けるのです。」と。「昨日のことをイマジン（想像）する人はいません。それは未来を描くことです。」と締めくくっておられます。

今期の地区運営方針の重点目標には DEI

(Diversity, Equity, Inclusion / 多様性、公平さ、インクルージョン) の理解を深め、地区及びすべてのクラブに浸透させる。というのがございます。この DEI の浸透はロータリーの危機管理と密接に関係しております。是非クラブにも DEI 委員会を作って頂き、会員の皆様で考える時間を持って頂きたいと思えます。

DEI の原則を取り入れることで、会員としての経験を向上させ、同じコミットメントや価値観を持った人たちを惹きつけ、より大きなインパクトをもたらしていくことが出来るという事です。多様性、公平さ、インクルージョンを強化するには、ロータリーで開かれたコミュニケーションや互いに学び合う協同的な環境をつくる必要があります。このような環境では、私たち一人ひとりが励まされ、価値ある存在であると認識され、それぞれが尊重され、成功と成長のために平等な機会が与えられます。ロータリーの新しい DEI の行動規範は、私たちの中核的価値観を反映しているだけでなく、ロータリー会員が協同的かつ前向きで、健全な環境をみんなのためにつくり、維持していく方法を示しています。

今期の地区運営方針の重点目標にはもう一つ、会員増強を推進し、新しいタイプのクラブを創出する。というのがございます。

当 2680 地区は7月初めで、ロータリークラブが70 クラブ 2522 名です。その内女性会員の割合は4.81%と日本の34 地区中最低の割合です。誰でも良いという訳ではありませんが、当地区において増強は喫緊の課題でございます。RI 会長の方針でもありますので、特に女性と若い世代に的を絞って、会員増強に努めて頂きたいと思えます。

最初にも申しましたが、今年度の RI 会長テーマは「Imagine Rotary」です。

このテーマは非常に漠然としておりますが、逆に自由で創造的な活動を示唆していると思えました。

そこで、今年度の地区行動指針は“Let's Enjoy Rotary !!”「共にロータリーを楽しみましょう、ロータリーの明日に夢を込めて」とさせて頂きました。私の決めた今年度の地区行動指針も漠然としておりますが、思いは地区内全てのロータリアンの思いではないかと思っております。地区の役割は地区内クラブの支援であります。これからの1年、地区内クラブの皆様のお声に真摯に耳を傾け、ガバナー年度が終わるまで、しっかりとロータリーと向き合って参りたいと思っております。

お互いに新しい仲間を増やし、奉仕と学びと親睦にと楽しいロータリーライフを過ごしてまいりましょう。そして、この年度が実り多い年度となります事を切に願っております。





2021-22 年度神戸東ロータリークラブ

第 68 代会長
理事 森本 一裕

会長退任に当たりましてお世話になりましたすべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は会長テーマを「質素剛健 自重自治」「ふんわりわくわくロータリーライフを」として、清貧の心を持って平穩に一年間を全う出来ればと願って会長職をスタート致しました。

しかしながら新年度がスタートしますと、8月初めに 48 年間連れ添った妻が他界し、一時落ち着きを見せ始めていた新型コロナ感染も増加傾向に転じました。

また今年 4 月には我クラブのホープであった関本剛会員が 45 歳の若さで逝去されました。彼は職業奉仕の理想を見事に実践し生きる事の意義を教えてくれたロータリアンでした。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

5 月には近隣のロータリークラブ会員の不幸事が発覚する等まさにこの世の無常と易不易（変えるべき事と変えてはならない事）の大切さを実感した一年となりました。

会長就任の挨拶でも述べましたが毎週の例会での会食は我がクラブ 68 年の歴史と伝統の積み重ねであり一年間を通して実施出来た事は大変意義深い事であったと思っております。

今回の近隣ロータリークラブ会員による不幸事は

我々としても重く受け止めなければならない事件だと思います。

今一度ロータリーの基本に立ち返る事、即ちロータリアンの 3 つの義務、会費支払、例会出席、機関誌購読を再確認し、4 つのテストを日々実践する事が大切であると改めて強く感じました。

会長テーマのひとつを「ふんわりわくわくロータリーライフを」としましたが、この一年間で個人的に印象深い事は合わせて 4 回、むつみ会と合同で親睦会を開催出来た事です。

特に新開地の喜楽館を借り切った落語会は落語好きの私にとってわくわくの素晴らしい思い出となりました。

また今年 5 月全日本ロータリークラブ親睦合唱祭が 3 年振りに名古屋で開催され我クラブのコーラス部も参加して参りました。

この合唱祭の参加は第 1 回から連続で 25 回を数えます。

私が毎年楽しみにしておりますのは本番のコーラスが終った後の参加者全員の大懇親会です。

合唱という趣味を同じくしたロータリアンが何百人も参加しますので毎回大変盛り上がります。

今から 3 年前、今は亡き関本君がタイガースの法被を着てステージで「六甲おろし」を歌った姿は今も目に焼き付いています。

コーラスの練習はハードですが全日本親睦合唱祭はいつまでも続いて欲しいと願っております。

私の好きな言葉です。

人生というものはいつでも予期せぬことに満ち満ちている。

計画などたてたところで計画通りの人生など生きられるはずがないのである。

もし自分の計画通りの人生を生きた人がいるとしたら、それはたぶんつまらない人生を生きた人なのだ。 立花 隆

最後に私の今の心境です。

人生は「わくわく」で満ちている。

そしてそれはいつも突然やってくる。



前年度副会長
理事
奉仕プロジェクト委員長

三戸岡 英樹

この一年のすべてのロータリークラブの活動はコロナに翻弄された。神戸東ロータリークラブはコロナ禍にもかかわらずリアル例会を一度も休まず実行した稀有なクラブである。危機管理委員会の一人であった私は委員長の道上先生と共に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の期間はクラブの休会、オンライン開催などしっかり具申したがリアル例会は実行された。結果的にコロナ罹患者はあったものの一人の重症者や死亡者を出すことなく推移したことは幸運だった。宣言・措置期間では軒並み他のロータリークラブが休会、オンライン開催に舵を切ったにもかかわらず森本会長、工藤幹事がリアル例会にこだわった理由は何だったのか。実際にふたを開けてみれば宣言・措置の出席免除期間でさえ高い出席率をキープしていた。驚くべきことであり神戸東ロータリークラブの会員の多くがコロナ罹患リスクの中リアル例会出席にこだわっていたのだ。平均年齢65才の当クラブ会員はコロナウイルスに曝されれば重症化や死亡するリスクは当然高い。にも関わらずたくさんの会員が出席していた。会長、幹事は熟考してリアル例会の実施を決定したはずだが高い出席率については予想していなかったはずだ。副会長の一人として会長、幹事の傍らに常にいた者として頑なとも言えるリアル例会実行の決断の裏にはお二

人のロータリークラブの例会の本質についての強い思いが隠されていると思わざるを得ない。2019年暮れに発生したCOVID-19は瞬く間に世界中を席卷し人と人のコミュニケーションはリアルからオンラインを使用した仮想のものに否応なしに変換させられていった。時間や場所に制約されることなく、またコロナの感染を回避しながら比較的安価に多人数が同時にコミュニケーションが取れることは素晴らしい世界中に広まったことはうなづける。私も患者様の診療、趣味の合気道の稽古、飲み会（私は下戸なのでノンアルで参加）、様々な会議などで利用させていただいた。最初の内はその真新しさに魅了されていたが、ほどなく物足りなさを感じている自分に気づいた。たとえばオンラインで診療した患者様が目の前に現れた時、オンライン上でその患者様から自分が受け取っていた印象と随分違うことがあったからだ。考えてみればオンライン上のコミュニケーションはスピーカーから出る音としての言語とモニター上の画像に頼るものであり、生の聴覚、生の視覚で把握したものではなく、この違和感は当然と言えば当然だ。ヒトはお互いにリアルな環境で接する時、聴覚で微妙に発せられたあるいは発した言葉の波動を感じ、視覚では所作や顔色の微妙な変化を感じ、時と場合によれば触覚、嗅覚、味覚すら動員してコミュニケーションを取ろうとする。限られた感覚でコミュニケーションを取るオンライン環境と五感をフルに動員するリアル環境のコミュニケーションが違うことは至極当然であり、私はそれを物足りなさとして感じ取ったに違いない。コロナ禍の中、あえてリアル例会を実行したことについては今後も賛否両論があると思われるが、森本会長、工藤幹事が決断実行した背景にはやはりロータリー例会は生のヒトとヒトの交流の場であり、それ抜きにしては考えられないという強い思いであったと推測できる。ロータリークラブの本質をお二人からお教えいただいた。1年前より少し神戸東ロータリークラブが好きになった。



前年度副会長
理事 塚本 哲夫
公共イメージ委員長

副会長としての役割もよくわからずに一年が過ぎたように思います。

私のような人間でも副会長が務まるということは、後に続く人は引き受けやすいはずです。

今年度もコロナ禍の環境の中で、例会・理事会とも頑固にやり通すことが出来ました。

理事会での判断・結論は、自然に落ち着くところへ落ち着いていったと思います。

年々会員の平均年齢は上がってきています。理事会構成メンバーの年齢も高くなってきています。その年齢層での判断が時代遅れの RC にならないようにせねばなりません。

もっとクラブの活性化のために会員拡大をやり、平均年齢を下げる努力も必要です。

理事会での議論の多くは、コロナ禍での危機管理対応、ハラスメントの問題、入会資格の問題等でした。誰でも好き嫌いはありますし、意見の違いは当然あります。

理事会では、それらは正々堂々と包み隠すことなく話し合われました。議論でそれらを乗り越えていくのが人間の成長です。ロータリークラブとして何が正しいか、それは時代と共に変わります。今は我々の中核的価値観として、親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップを掲げています。

副会長として私のロータリークラブでの役割の質は、「公共イメージの向上」でした。

そこでは、関本剛君のことを話さねばなりません。彼は我クラブのホープで最若年のメンバーでした。

地区への出向や奉仕活動、クラブ内ではコーラス同好会と俳句同好会（余韻会）に属しておりました。休日のコーラス練習日には、二人のかわいい子供たちを連れて来ておりました。俳句会（余韻会）では、30 句程投句していたようです。

その中から 2 句を下に記します。

その彼が今年の 4 月に逝去されました。45 歳の若さです。

- ・あと何度 酌み交わせるか 父の日よ
- ・水鳥の 後を濁さず 発ちにけり

（俳名 関本剛紀 作）

残念無念であります。ご両親、奥様、二人のお子様方に心が痛みます。

緩和ケアの優秀な医師としての彼に、3 年前に癌が発見されました。その時は、もう既に肺癌の 4 期でした。脳にも転移しており、余命 2 年と診断されました。

医者として病状の進行は冷静に受け止めていたのでしょう。肉体的にはもちろん、精神的な苦痛は大変なものがあつたはずですが。それを彼は「残り 2 年の生き方、考え方」という本に著しました。

働くことが人の役に立ち、生きるエンジンなのです。と言って彼は最後まで働きました。癌の医者が緩和ケア医として、癌患者を看るのです。反抗的だった患者も自分に親しみと信頼を感じてくれるようになったと言います。

「溺れる者は藁をもつかむと言いますが、私は溺れません。最後まで泳ぎきります。」と力強い言葉です。

SNS で彼は、神様のような医者だと讃えた文がありました。

彼の生き方こそロータリアンとしての公共イメージの向上になるでしょう。

そんなメンバーがクラブのすぐ隣にいるのです。

今や人生 100 年と言われる長寿化時代を迎えました。クラブとしても 100 年時代の人生戦略を考える必要を思います。我クラブにも元気なご老人！？が沢山おられます。

RC には青少年開発委員会があります。

これからは、高齢者開発委員会があっても良いのではと思います。



前年度副会長
理事 植村 孝一
クラブ管理運営委員長

質素剛健 自重自治 ふんわりわくわくロータリーライフ というスローガンのもと船出した森本丸も早一年。

今年の執行部の平均年齢は73歳。こんな年寄り集団で大丈夫かとも思いましたが世代交代の基礎造りをするためには我々がお役に立たなければとの思いから、忍耐と寛容の心をもって変化を恐れず改革を断行することができたと思っています。

今はどんな組織も世代交代を迫られており、うまく世代交代が行われた組織だけが生き残れる時代だと思います。

本年世代交代の基礎固めはできたと思います。次年度井元会長を中心に神戸東ロータリークラブの会員みんながロータリアンとしての誇りを持ち、ロータリーライフを楽しく意義あるものにする、そんな神戸東ロータリークラブを作ってください。





前年度幹事
理事 工藤 恭孝

細則を変更しての体制で臨みました今期でした。
例会はPCR検査を実施しながらの通常例会開催に
始まり、度重なる緊急事態宣言発出と蔓延防止等重

点措置区域指定にも関わらず、オンライン併催しつ
つ何とか予定日をすべて開催することができまし
た。

抗体検査等万全の感染対策を講じての忘年家族例
会、むつみ会合同例会、同創立記念例会、喜楽館懇
親会は親睦家族委員会はじめ、会員、むつみ会会員
のご理解と寛容の賜です。

三東会の再盟約締結、シンガポールとの姉妹再締
結・オンライン交流会、市内3RC連絡懇談会の再
開と少しずつコロナ復旧に向かいつつあります。

当初の予定を何とかこなしただけの稚拙な幹事を
支えて頂いた理事、委員長そして会員の皆様に感謝
申し上げ、後は次年度に託し、退任の挨拶と致しま
す。





職業奉仕委員長
理事 林 伯正

2022-23 年度、職業奉仕委員長を仰せつかりました林伯正でございます。

まず初めに委員会構成メンバーを紹介させていただきます。副委員長に和田真一会員にお願い致しました。彼は私にない真摯な振る舞いをされるので、きっと陰で私を支え、フォローしてくれると思い強く指名致しました。また、委員としてロータリー経験が豊富でムードメーカーな藤井光造会員と多田善計会員、知恵袋として後藤章暢会員を迎え、全5名の布陣で一年間職業奉仕活動を行って参ります。会員の皆様方におきましては、ご協力をお願いすることが多々あるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、早速ですが、過日、地区研修会にて職業奉仕について勉強をさせていただきました。そこで以下2点のことを学ばせて頂きました。

1. 職業奉仕というのは、毎回例会に出席し、多種多様な職種の人達と出会い、意見や情報を交換し、その中で身に付けた知識を自己の職業を通して奉仕を実行する。
2. 「たくさん働き、たくさん稼いで、たくさん税金を納める。」これは社会奉仕であり、職業奉

仕ではない。

「良いことをする、人の為になることをする。」

これを職業上で行うのが職業奉仕であり、職業以外で行うのが社会奉仕である。

まだまだこれ位しか理解はしておりませんので、今一度、ご経験者の方々へはご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

次に具体的な活動と致しまして、株式会社アシックス（神戸市中央区港島中町）への企業訪問を企画しております。訪問施設は、①西区高塚台の「アシックススポーツ工学研究所」と、②中央区港島中町の「アシックススポーツミュージアム」です。①の施設は、人間の運動動作に着目、分析をし、独自に開発した素材や構造設計技術を用いてアスリートの可能性を最大限に引き出す、技術・製品を生み出す研究をしている施設です。また、②の施設は、一流アスリートの素晴らしいパフォーマンスを体験したり、さまざまな競技のシューズなどに実際に触れたり、スポーツの楽しさとアシックスの進化の歴史を伝える企業博物館です。

訪問日時につきましては、2022年12月、2023年1月を除く日程で申し入れをしており、先方からはどちらか1施設のみと言われておりますが、2施設共訪問できるよう誠心誠意、粘り強く交渉して参りますので、施設訪問開催時には是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

以上、甚だ心許ない委員長ではございますが、井元会長の『Wind of Smile ― “笑顔の風” 運ぶクラブをめざして―』のスローガンのもと、ニコニコと進めて参りますので、一年間お付き合いの程よろしくお願い致します。

以上をもちまして、職業奉仕委員長としての挨拶を終えさせていただきます。

ご清聴誠にありがとうございました。

社会奉仕委員長
理事 鮑 悦初

2021 - 2022 森本年度、直前会長の私は神戸東 RC の長年の慣例に従って、S.A.A（会場監督）のお役を仰せつかり、務めていました。

個人的な話ですが、確か7月の終わり頃に、私が終の棲家として購入したマンションの仕様変更・オプションの件で、建築に詳しい鈴木祐一さんに気軽に“チョット相談にのって！”と声を掛け、相談に乗ってもらいました。暫くして、今度は鈴木さんから“鮑さん、チョット相談に乗って！”と声を掛けられました。話を聞くと“次年度、井元年度で社会奉仕委員会の委員長を受けて！で鮑さんの年度で出来なかった事業をやって！”と言われました。グサッと借りがある私の弱みについて来ました。

RC で義理を欠いては、この先、生きては行けないと思い“はい！わかりました！”と二つ返事で引き受けました！本心はチョットゆっくりしたかったのですが・・・（笑v）

皆さんご存じの様に、我々が暮らす神戸は港町神戸、国際都市神戸と言われ、欧米、中国、韓国・朝鮮をはじめ多くの外国人が暮らしています。神戸には多くの「外国人学校」あり、夫々の国の子弟がそれらの学校で自国の言語や歴史等々を学んでいます。私の母校である神戸中華同文学校もその内の一校であり、これらの学校が阪神・淡路大震災を切っ掛けに「兵庫県外国人学校協議会」をつくり、外国人学校間での交流などの活動をしています。日本の学校との交流は少なく、関係者以外でその存在を知る人はそんなに多くはいません。

今年度、神戸東 RC の新たな社会奉仕事業として、

地区補助金を活用して、来年の2月25日（土）、神戸文化ホールにて「兵庫県外国人学校協議会」の外国人学校と日本の公立・私立の小・中・高の生徒達と関係者（600～700人規模を予定）を招いて音楽や民族舞踊などの文化交流事業を企画しました。

この交流事業を通じて、我々 R の目的である国際理解、親善、平和の促進、R の核的価値観の一つ、多様性への理解に繋がりたいと考えています。

21 世紀の今日において、悲しいかな先の第二次世界大戦の反省もむなしく、想像もし得なかった戦争が起こっています。毎日、ウクライナで自国を守る為に勇敢に戦う戦士だけでなく、何の責任もない多くの幼い子供や高齢者、女性たちがロシアの爆撃によって亡くなっている報道を見聞きして、世界中で多くの人が心を痛み、怒りを禁じえないでいると思います。世界中で多くの人が、ウクライナの人々に一日でも早く戦争のない、平和な日常が戻ってくことを願っていると思います。

次世代を担う若い青少年たちへ、改めて国際理解、親善、平和の大切さ、多様性への理解へ繋げるこの事業は、正に時宜を得た事業ではないかと考えています。

今、当日の子供たちが出演する舞台での横一文字のテーマを漠然と考えています。例えば“多文化共生社会！私たち一人ひとりが神戸の宝物！”、“想像してみよう！多文化が共生する豊かな神戸のまちを！”とかは如何でしょう？何か良いテーマ、知恵があれば是非お聞かせください。

「兵庫県外国人学校協議会」J・バルク会長に、この文化交流会の中の何処かで、何処かの学校でジョン・レノンの名曲「Imagine」を子供たちに唱歌してほしいとお願いしています。この神戸東 RC の社会奉仕事業を通して神戸の町が更に多文化共生を大切にする、更に心豊かで住みよい神戸の町づくりに繋がれば“神戸東 RC カッコいいな！”って勝手に Imagine しています！

この事業を成功させる為に、神戸東 RC の皆さんにもお手伝いをお願いすることも有ろうかと思えます。その時は“よっしゃ！わかった！”と「笑顔の風」でお願いします。

鈴木祐一幹事に“はい！わかりました！”と引き受けた時、内心“なんでやねん!?”って思いもありましたが、今は良い機会を与えて頂いたと感謝しています。R に、神戸東 RC に、感謝！感謝！感謝です！！



国際奉仕委員長
理事 光葉 應宏

今年度、2022—2023 年度国際奉仕委員長を拝命させて頂きました、光葉應宏と申します。入会させて頂きまして5年半になりますが、奉仕委員会は今回初めてになります。五年間も神戸東ロータリークラブに所属させて頂きながら、自発的な年間のビジョンを探りながら進めていく現状です。一年間で成長出来ます様、ご指導の程宜しく申し上げます。

基本方針 会長方針の『Wind of smile-“笑顔の風”運ぶクラブを目指して』を基に、国際奉仕委員会活動を通じて、神戸東ロータリークラブとしての国際理解、国際親善、世界平和を推進していく。

具体的活動内容

1. メルボルン国際大会への参加〔神戸東ロータリークラブ内でのツアー〕を計画する。
2. シンガポールロータリークラブの来日を神戸東ロータリークラブでお迎えする。
3. 新グローバル補助金事業を検討する。

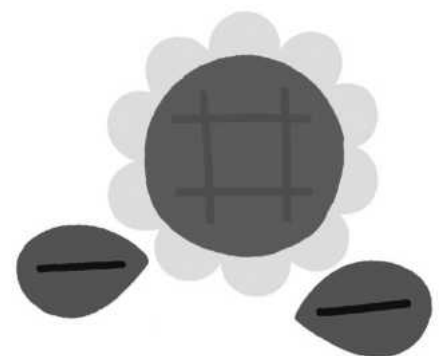
さて、国際奉仕とは調べますと殆どロータリークラブの言葉の様にネットでは掲載されております。釈迦に説法とは存じますが周知徹底の為抜粋させて頂きます。

【奉仕の第四部門である国際奉仕は、書物などを読むことや通信を通じて、さらには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成るものでポリオ・プラスの貢献から、青少年交換生の派遣国での異文化適応の支援まで、さまざまな活動がこれに当てはまります。】

これにより、今年の2680地区の運営方針は

1. 国際奉仕のプロジェクトを推進するための効果的なセミナーを実施する。
2. クラブや地区がグローバル補助金を活用し、多様な国際奉仕活動が実施できるように支援する。
3. VTT、奨学金、平和フェローシッププログラムを支援する。
4. 国際奉仕に関連する月間において、クラブの関連プログラムに協力する。

最後にメルボルン国際大会への神戸東ロータリークラブ会員としての参加をお願い致します。





青少年奉仕委員長
理事 池上 勝義

2022 - 2023 年度 青少年奉仕委員長に就任いたしました池上です。

今年度の井元会長の方針である「笑顔で活動を楽しみ、未来を切り開く」という考えがあります。そのためには神戸東ロータリークラブをスマイル（笑顔）で盛り立てていき、会員同士がお互いに理解して親睦を楽しく深め、活動できるように取り組んでまいります。また、地域に役立つ社会奉仕活動を進めて、青少年の育成事業に力を注いでまいります。

今年度は台湾から交換学生の Yi-Chiung LIAO 君が8月に来日し滝川高校に入学されます。カウンセラーの小林氏、ホストファミリーの皆様と Yi-Chiung LIAO 君が日本での学業や日本文化に慣れ親しめるようにカウンセラー、ホストファミリーと共に連携を取って、交換学生が日本で有意義に過ごせるようにサポートしたいと思います。

また、今年度は新たに4歳児・5歳児のラグビー大会（kobe っこ親善ラグビー大会）を開催いたします。

こども達のラグビー大会を応援するため、神戸東ロータリークラブが後援会となり kobe っこ親善ラグビー大会を支援してまいります。昨年の kobe っ

こラグビー大会には井元会長、鈴木幹事が試合見学にこられて試合が終わるまで観戦して頂き、井元会長、鈴木幹事のお二人はとても感動されていました。ラグビーというスポーツは人を感動させることを改めて実感しました。コロナ禍でこども達はこの二年間、スポーツや外での活動が制限されてストレスがあったと思います。今回の大会では思う存分、グラウンドを駆け回りラグビーの楽しさや素晴らしさをこども達に感じてほしいと思います。

この大会が青少年育成につながり成功しますよう、神戸東ロータリークラブの会員が一丸となって進める事業と信じています。井元会長はじめ会員の皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。





2022-2023年度ロータリー財団委員長

渡邊 英一郎

次年度のロータリー財団の活動について

先日天に召されました関本剛さんをお願いしていた卓話を、不十分ながら私が代理となって、ポリオプラスの活動内容の一部について説明をお聞きいただきたいと思います。

なお、画面に映っているパワーポイントのデータは生前の関本剛さんが講演でご使用されたものをお借りしています。

2019年5月に神戸西RC行われた卓話にて、関本さんが準備された資料とともに、「あと少しだけ、ポリオを撲滅するためには更にお金が必要である」という事を皆さまにお知りいただきたいと思っています。

まず、ポリオとはどのような病気なのかについて、簡単にご説明させていただきます。

- ・人が唯一の宿主（しゅくしゅ）である事。
- ・感染経路は感染者とその排泄物のみである事。
- ・治療方法がない事。
- ・予防接種でウイルス感染を防ぐことができる事。
- ・感染した場合、感染者の0.5～1%が非麻痺型で、約0.1%が典型的な麻痺を発症し、時には死に至る事。

等が主な特徴です。

有効な治療法は現在でも存在していません。ワクチンによる予防が唯一、最大の対策となります。

ポリオワクチンには、口から入れる経口生ポリオワクチンと、注射を必要とする不活化ポリオワクチンとがあります。

生ワクチンの場合は、それを飲んだ人や保護者など周りの人に、（数十万～数百万人に一人と非常に低い確率ではありますが）ワクチンの副作用としてまひが起っています。

経口ワクチンは、安価で簡便という利点がありますが、100パーセントではない予防率であることから、撲滅することができません。

不活化ワクチンは、ワクチンによる麻痺が絶対におこらない事が利点ですが、注射による接種が必要であり、（1回6000円ほど）値段が高く、抗体を獲得するために4回の接種が必要となってきます。

つまり、ポリオ撲滅を達成することができる唯一の道である不活化ワクチンは、値段が高く、手間も非常にかかるということです。

1985年に、ポリオの撲滅を宣言し、予防接種の資金を調達する為に開始した運動「ポリオプラス」が設立されました。

「プラス」という言葉は、ポリオ撲滅の取り組みで構築することになるであろう、世界的な予防接種のシステムが、子どもの間に流行する他の5種類の伝染病（はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風）の世界的な予防接種にもつながるだろうという考えを表していました。

このインフラは、最近では新型コロナウイルスとの闘いにも活用されています。世界ポリオ撲滅推進活動は、2021年2月1日にコロナワクチン接種開始に向けたサポートを行う準備が整っていることを発表しました。新型コロナワクチンが世界中で配布されつつある現在、ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動のパートナーが培ってきた経験と知識が新



型コロナへの対応に役立っています。

ロータリー会員は、ポリオ根絶活動で行ってきたのと同じ方法で、新型コロナワクチンの導入を支援しています。それらは、各地でのワクチン接種に対する認識向上、保健員への支援、誤った情報やワクチンに対するためらいへの対応、特に支援を必要とするコミュニティにおける公平なワクチン配布の提唱といった活動です。

1988年には年間35万人の子供がポリオを発症していましたが、世界中での大規模な一斉予防接種キャンペーンによる経口ポリオワクチンのおかげで、1988年以来、野生型ポリオの発生件数は99.9%以上減少しています。

一方で、経口生ワクチンを利用している国では、先ほど申し上げたような、ワクチン由来のポリオ発症が散発しています。

なお、2020年8月25日、アフリカからのポリオフリー（野生株ポリオの発生が無い状態）が宣言されました。

アフリカ最後のポリオ常在国であったナイジェリアで直近3年間ポリオが発生していないことが認定されたためです。

しかしながら、良い話ばかりではなく、パキスタンでは2020年3月から7月にかけて、新型コロナ感染のパンデミックにより、3,900万人以上の子どもたちが予防接種を受けることができませんでした。パキスタンでは（2020年11月23日）現在、ポリオ新規感染者が増加し、4つの州で合計81件の野生株ポリオの症例が報告され撲滅が困難な状況に直面しています。

世界からポリオを撲滅しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国はわずか3か国ですが、ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子供に及ぶことになります。

天然痘撲滅に続く、ポリオの撲滅という、人類史

上2つ目の偉業達成まであと少しといわれています。

最後の一步は達成できると考えられておりますが、乗り越えねばならない課題もある、近い様で遠い一步です。

地球上に一人でも感染した子供がいれば、毎年20万人もの新規患者が発生する可能性があり、根絶しない限り、全世界で毎年4億人以上の小児に、ワクチンを接種し続ける必要があり、根絶するまで、ワクチンの製造・運搬・接種・患者からの検体採取に対する費用を捻出し続ける必要があります。

2020年1月22日、ロータリーとビル&メリンダ・ゲイツ財団は、ポリオ根絶に年間1億5000万ドルを投入するための長期パートナーシップを3年間継続することを発表しました。

現在の状況は、ロータリアンが1ドル寄付すれば、同財団から2倍の寄付を上乗せされ、3ドルの貢献ができるというものです。2021-2023年においてはロータリアンの寄付金額の3倍相当がポリオ根絶への貢献に寄与できることになっていますが、2023年、つまり次年度が、このパートナーシップ最終年となる可能性があります。

この残された稀有な世界貢献のチャンスについて、このような環境下ではありますが、前向きなご一考、なにとぞよろしくお願いします。

最後に2019年の関本剛さんの卓話における、締め言葉を付け加えておきます。

「皆さまにおかれましてはこれからもゴルフやパーティーなど、ポリオプラスのイベントにご参加いただき、各種イベントでポリオブースを見つけた時、もしくはポリオプラスのメンバーに見つかった時には、これまで同様、御寄付を賜ります様、重ねてお願い申し上げます、私の卓話をおわらせていただきたいと存じます。」

御静聴ありがとうございました。

六甲バター(株)の神戸工場を職場訪問しました



コロナ禍の為 6 月 28 日の職場訪問については、
年度末ぎりぎりの日程であるにも拘わらず、多く方
のご参加ありがとうございました。

六甲バター(株)の新しい神戸工場は最新の施設で大
変に大規模で見応えがありました。

塚本相談役におかれては、今まで見たこともない
デラックスなチーズの詰合せのお土産をご用意いた
だき大変に感謝です。御礼を申し上げます。

(2021-2022年度職業奉仕委員長 吉田 博)



2021—2022 年度の最後を飾る親睦会を 落語と中華料理で楽しみました



今年度の親睦会は新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれましたが、感染者の状況が比較的に改善した2022年5月24日に開催されました。

今回は17時から新開地の喜楽館で桂文喬さんと仁喬さんの落語を楽しみ、その後徒歩で神戸駅前の天

安閣に移動して中華料理に舌鼓を打つ趣向でした。

出席者はむつみ会12名を含めて55名の大勢で、皆さん久しぶりにお酒とおしゃべりをゆっくり満喫することが出来ました。

(2021-2022年度親睦・家族委員長 山崎 仁嗣)





加藤 公隆

—西日本電信電話 兵庫支店—

2021年10月5日に伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させていただきました加藤公隆と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、1974年（昭和49年）9月24日生まれの47歳です。家族は妻と高校2年になる息

子がおります。趣味はランニング、海外旅行、スポーツ観戦です。今年のトピックスは、神戸マラソンにエントリーできましたので、初マラソンを走る予定です。出身は福岡県飯塚市で、四方を山に囲まれた自然豊かでのどかなところ です。

小学校4年生から少年野球に入り、中学生まで野球部に所属しておりました。小さなころから控えめで引っ込み思案だった性格は、野球をやることで自信がつき徐々に社交的に変わっていきました。高校ではラグビー部に入部しました。とにかく練習が厳しくて一日中走っていました。苦しい練習を耐え抜く中で忍耐力が養われました。

1994年に長崎大学経済学部に進学しました。ワンダーフォーゲル部に入部し、九州各地の山を登ったり、四万十川をゴムボートで川下りしたり、足摺岬から室戸岬まで自転車で走ったりと色々なアウトドア活動をしました。

そして1997年4月に日本電信電話株式会社に入社しました。私がNTTに入社して2年後、1999年にNTTは東日本と西日本、コミュニケーションズに分社され、私もNTT西日本の本社に異動になり、25歳で大阪に出てきました。

入社10年目、32歳の時に会社のMBA派遣制度を利用してアメリカに留学しました。ジョージア州、アトランタにあるエモリー大学に行きました。日本で英語は相当勉強して行ったのですが、とにかく最初はネイティブの英語が聞き取れなくて苦労しました。留学中の1年目から2年目の間、4カ月ほど学校が休みの期間があります。この期間に、車でアメリカを1か月かけて周るという旅行をしました。住んでいたアトランタから、ずっと西海岸に向かって走り、ラスベガス、ロサンゼルス、サンフランシスコなど通って、それから中央部を通ってアトランタに戻ってくるという旅です。安い宿に泊まりながら29泊30日、走行距離は12,500kmになりました。大自然の中で、色々な多様性を受け入れているアメリカの大らかさ、また世界の学生たちの文化、価値観に触れることができました。今でも仕事で小さな事で悩むことがあればこの経験を思い出して、小さいことだと思うようにしています。

私は、NTTらしい仕事からは少し変わったキャリアを歩んでいます。一番長く携わったのが、スマートフォンやタブレットで本やマンガを読む電子書籍事業になります。TV CMでご存じの方もいるかもしれませんが、「コミックシーモア」というサービスを、2002年にNTT西日本の社内ベンチャーという形で立ち上げて、私はこの会社の運営を13年くらいやっておりました。

その後、2021年7月から現職、NTT西日本兵庫支店に着任しました。自治体様や地域の企業様にネットワークやソリューションなどICT技術を活用したデジタル活用のご支援をしています。NTT

西日本は「ソーシャル ICT パイオニア」というビジョンを掲げ、ICT 技術を活用して、地域の社会課題解決に貢献することを目指しています。私も、神戸東ロータリークラブの発展に、「笑顔で活気あふれるクラブ」の実現に向けて、少しでも貢献したい気持ちです。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。





池田 知聡
—アーク不動産—

こんにちは。

去年の10月に、岡工務店 岡社長と日本ネットワークサービス 松井社長のご紹介でこの伝統と格式のある神戸東ロータリークラブにさせて頂くこととなりました(株)アーク不動産の池田と申します。

私は商人の町で有名な大阪府堺市に1966年1月17日に生まれました。

子どもの頃はとにかく活発で野球に明け暮れていました。

また小学校6年生の時には、浜寺スイミングスクールに通っていた成果なのか毎日新聞のスイミングコンテストにおいて堺市で1位になり新聞にも掲載されました。

中学になり硬式テニス部に入り、桃山学院高校ではラグビー部に所属し、神戸学院大学ではゴルフ部に所属していろんなスポーツに携わってまいりました。

いろんな経験を積んで平成2年4月にライオンズマンションで有名な(株)大京に入社させて頂きました。

当時の大京は超ブラックな会社でほとんど休みもなく朝9時半くらいから夜は12時くらいまで毎日毎日営業電話を1000本から2000本かけまくっていました。

夜遅くになってくると電話を普通の家にはかけにくくなるので、病院の当直医をめがけてかけてみたり、オーナーが夜にいたのでコンビニへかけてみたり、飲食店、消防署等いたるところにかけてアポイントをとっていき、そして契約に結び付ける。そんなことをしていました。

全員の成績がわかるグラフを会社の正面に貼り出して、売ることが美徳のような風潮でした。

そんな中で8年半在籍しましたが、通算298本契約、年平均33本の契約を成し遂げました。

当時大京には優秀社員制度(CPC)があり、月3本×3ヶ月=9本を達成した社員には大京バッジの色が黒から青に変わり、東京でのパーティと表彰式への参加でき、報奨金も頂きました。

このCPCを3年ほど継続して達成し、特別優秀者に選ばれオーストラリア海外研修にも連れて行って頂きました。

平成10年頃になると創業社長が退き、旧三和銀行副頭取であった方が社長に就任されました。新社長は「今は個人で売る時代ではなく、会社組織として売っていく時代だ」との方針で、次々と新制度を導入、旧制度も多くが廃止されました。

その方針転換の結果、個人の努力よりも会社全体主義に変わり納得出来ない事が増えていき、私も自身の可能性にかけてみたくなり、独立することを決意しました。

そして2004年に(株)アーク不動産を創立し現在18年目を迎えます。

会社の業務内容は

◇新築マンションの販売代理業

- ・岡工務店の分譲マンション「エクセル」シリーズ
- ・和田興産「ワコーレ」
- ・京阪電鉄不動産「ファインレジデンス」
- ・住友不動産、サンヨーホームズ、ダイワハウス、第一交通産業、等

※実績 142 棟 6970 戸

今まで全て完売させていただきました。

◇自社戸建分譲「ラフィュー」

◇老人ホーム事業

「ありがとうがいっぱいの会社に」

私たちは不動産取引を通じ、
お客様、取引先の企業様、地域社会、
社員とその家族に信頼される誠実な企業でありたい
そしてありがとうに包まれる会社でありたいと考えて
おります。

さいごに

私も 56 歳になり、そろそろ社会に対して何かし
ら貢献できないものか、と思案していたタイミング
で松井社長からお誘いをいただき、この伝統と格式
ある神戸東ロータリークラブに参加させていただく
こととなりました。

以後、私にできる精一杯の事を考え、社会貢献さ
せて頂きたいと思いますのでなにとぞ皆様方の、ご
指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。





▲ 5月10日「ローターアクトの現在 (いま)」
第2680地区ローターアクト代表 阪本 渚子 氏



▲ 5月31日「食と健康」
三戸岡 英樹 会員



▲ 5月17日「なぜ私は途上国支援をするのだろうか / そして
今こそ私は行動しなければならない」
NPO 法人 Future Code 代表理事
(元ロータリー財団グローバル補助金奨学生)
大類 隼人 氏



▲ 6月14日「ロータリー女性会員として」
吹田ロータリークラブ 麻生 満美子 氏



▲ 5月24日「明楽みゆき北前船浪漫紀行」
～チェンバロと共に～
株式会社 明楽アート・オフィス
代表取締役 明楽 みゆき 氏



▲ 6月21日「我がクラブで思う事」
植村 孝一 会員



▲ 7月26日「ウクライナ危機後の世界と日本」
名誉会員 五百旗頭 真 氏



▲ 8月30日「内部通報制度の最新動向
ー独立ラインを中心にー」
弁護士 横 瀬 大 輝 氏



▲ 8月2日「臨時総会（決算・予算）」



▲ 9月13日「米山記念奨学事業の現状」
米山記念奨学委員長 森 本 楽 会員



▲ 8月23日「これからの会員増強」
国際ロータリー第2680地区
会員維持増強委員会
委員長 梅 原 可奈子 氏





余韻会（俳句同好会）

令和四年三月十五日

ホテルオークラ神戸 桜の間

白酒の封を切るより赤らむ頬

奥田 好子

薄霞晴れて海峡動き出す

則岡 弘士

朝霞汽車遅れをり湖東線

塚本 宗哲

朝霞保久良の裾に人の影

松谷 泰山

赴任地に迷ひて着いて夕霞

吉井 聖倅

白酒や酔うて楽しむ昼下がり

神田 淡京

白酒と甘酒で杯酌み交はし

小林 一也

背中まで春の泥跳ね遅刻の子

村野 離翔

余韻会（俳句同好会）

令和四年四月十九日

ホテルオークラ神戸 桜の間

風車子等の未来を先回り

奥田 好子

春昼やドライシエリーを飲んでをり

角田 伯堂

口笛の郵便配達春隣

則岡 弘士

釣人のうとりうとりと春の昼

塚本 宗哲

散歩道走る子の手に風車

松谷 泰山

風車止まりて景色止まりをり

吉井 聖倅

風車動きに合はす乳母車

神田 淡京

ライオンも腹を晒して春の昼

村野 離翔

余韻会（俳句同好会）

令和四年五月二十四日

ホテルオークラ神戸 桜の間

六甲の初夏へ煌めく雨上がり

奥田 好子

風止んで少し重たげなる牡丹

角田 伯堂

空晴れてスケッチブック楠若葉

則岡 弘士

豊かなる水滔々と初夏を知る

塚本 宗哲

初夏の風山の青さの迫り来る

松谷 泰山

美食旅淡路の初夏を食べ尽す

吉井 聖倅

襖絵の牡丹の姿凛として

神田 淡京

初夏や鳴き声響く山の宿

小林 一也

牡丹の散りし花卉の重さかな

村野 離翔

余韻会（俳句同好会）

令和四年六月十四日

ホテルオークラ神戸 桜の間

入梅の兆し刻々昨日今日

奥田 好子

入梅と小耳にはさみ空仰ぐ

角田 伯堂

黒南風や紀淡海峡吹き上ぐる

則岡 弘士

夏衣俄化粧で街に出る

塚本 宗哲

夏衣心弾ませ散歩道

松谷 泰山

梅雨に入り香焚く老舗京町家

吉井 聖倅

取り出した皺の気になる夏衣

神田 淡京

入梅や玄関先の傘の花

小林 一也

梅雨に入る心静かに読書かな

村野 離翔

父の日

関本剛紀

初景色輝く海と港町
おまえには負けるものかとかるた取り
かるた取り興じる声に酒すすむ
白い山灰色の街春浅し
鶯の鳴き声届く縁側に
溪谷に鶯の声響きけり
春一番磯の香りも運びけり
保久良山梅の便りの届きけり
暖味な祖母の手を引き梅詣
飯蛸の朱色引き立つ皿の藍
風光る川辺歩みて新学期
風光る母校を抱く伯母野山
風光る川沿ひの道初登校
五月晴れ川面に映る雲の白
水虫も逃げる最高気温かな
あと何度酌み交はせるか父の日よ
山開麓の村の無事祈る
山開尾根の深碧空の青
亡き祖父に褒めてもらひに墓参
蝸の唄こだまする六甲山
新涼の気配感じる通学路
露草の小径で巡り逢ふ二人
お茶漬けに塩鮭勝るものはなし
行秋やストロガノフと赤ワイン
行秋の晴天に浮く雲白し
冬近し朝の寝床の心地よさ
彩りがしぐれて褪せる伯母野山
街路樹も化粧を落とす夕時雨
水鳥の微動だにせぬ立ち姿
水鳥の後を濁さず発ちにけり

「余韻会」の若手のホープであった関本 剛（俳号・剛紀）さんが、45歳という若さで逝去されました。発病がわかった令和元年の10月迄の約2年間の会報句稿を捲てみると特選10句、入選20句の計30句がびったり残っていました。まるで、30句を残すための値遇の縁を感じずにはいられず、新年から春夏秋冬順に俳人剛紀さんへの追悼の意を込めて私なりに纏めさせて頂きました。心よりご冥福をお祈り致します。

「余韻会」講師 奥田 好子

CONTENTS

会長就任挨拶	1
副会長就任挨拶	3
幹事就任挨拶	4
ガバナー公式訪問	5
前年度会長退任挨拶	7
前年度副会長退任挨拶	8
前年度幹事退任挨拶	11
4大奉仕委員長就任挨拶	12
ロータリー財団の活動について	16
職場訪問	18
森本年度会員親睦会	19
新会員自己紹介	21
例会スナップ	25
余韻会	27

編集後記

今回の会報誌は、森本会長年度から井元会長年度へのバトンタッチのタイミングでの発行となりました。三年近く前からの新型コロナが蔓延する中、例会やその他委員会活動、同好会、親睦会など様々な活動の開催に関して大変頭を悩まされたと察しますが、新旧執行部の判断が功を奏し、クラスターも発生せずクラブ活動が安心して執行できたことに当会の物事に対する判断力の素晴らしさを感じます。

この会報誌はそのような状況の中、クラブ会員一人一人が力強く取り組んでいる姿を記録したものです。

クラブの判断を受け各々の活動に参加尽力され、また会報誌掲載原稿のご依頼を快く承諾して下さい皆様に感謝いたします。

広報委員長 高橋 恵信